

激突! 澤田瞳子 vs 榎村寛之

齋宮歴史博物館
開館 35 周年記念イベント



平安時代ここだけの話

— 1000年を超える濡れ衣晴らします —

事前申込制・先着順

入場無料

定員 900名

澤田瞳子さん (左)

歴史小説家

榎村寛之 (右)

齋宮歴史博物館学芸員



© 富本真之

さわだとうこ・京都府生。同志社大学大学院文学研究科博士前期課程修了。専攻は奈良時代史。2010年、平城京の時代の奈良を舞台にした『孤鷹の天』でデビュー。2021年、幕末から明治初期の画家、河鍋曉斎の娘を主人公にした『星落ちて、なお』で第165回直木賞を受賞。取り扱う時代は、奈良時代から近代まで幅広く、『泣くな道真 大宰府の詩』、『吼えろ道真 大宰府の詩』の菅原道真もの、赤染衛門や紫式部が登場する『月ぞ流るる』など、平安時代の力作も多い。歴史研究団体「古代学協会」顧問、同志社大学客員教授。



当館学芸員としての登壇は、本イベントを含め、あと2回。お見逃しなく!

令和7年

1月13日 (月・祝)

13時~16時30分

受付・開場12時

三重県総合文化センター

三重県文化会館 中ホール

(三重県津市一身田上津部田 1234 番地)

えむらひろゆき・1959年大阪府生。大阪市立大学文学部卒業。関西大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。博士(文学)関西大学。専攻は日本古代史。齋宮歴史博物館開館計画から、当館に携わってきたレジェンド。令和6年度末にて、35年にわたって勤めた当館学芸員を退任予定。〈主要著書〉『齋宮-伊勢斎王たちの生きた古代史』(中公新書 2017年)、『謎の平安前期-桓武天皇から『源氏物語』誕生までの200年』(中公新書 2023年)、『女たちの平安後期-紫式部から源平までの200年』(中公新書 2024年)

プログラム

澤田瞳子が菅原道真を語る

天皇に重用されるも、大宰府へ左遷され、のちに恐怖の怨霊として恐れられた菅原道真。当代きっての歴史小説家澤田瞳子が、千年にわたって積み重ねた道真への誤解を晴らします。

榎村寛之が齋宮女御を語る

『源氏物語』に登場する六条御息所は、生霊・死霊として作中で最も恐れられた女性です。彼女のモデルとして語られる実在の齋王、齋宮女御徽子女王は、御息所のように恐ろしい女性だったのか、なぜ紫式部は齋宮女御を六条御息所のモデルにしたのか、深い誤解を晴らします。

そして二人が源氏物語を語る…!?

紫式部の生きた時代にちよっとうるさいこの二人が、源氏物語を熱く語り合います。

申込期間/令和6年11月29日(金)~12月27日(金)

※先着順・定員に達し次第受付終了・11月29日9時30分~受付開始

申込方法/1回のお申込みで最大5名様までご応募いただけます。

三重県電子申請・届出システム 右の二次元コードからアクセスできます ▶

往復はがき ※申込者氏名(フリガナ)、申込者の電話番号、参加人数(申込者を含む)を明記のうえ、以下申込先へお送りください。締切日必着

齋宮歴史博物館受付 ※受付時間: 申込期間中の9時30分~17時(休館日を除く)



当日ご参加の方の中から
抽選で20名様に
講師のサイン入り
著書をプレゼント



司会・清田のぞみ
レディオキューブFM三重
アナウンサー



近鉄名古屋線・JR紀勢本線・伊勢鉄道「津駅」下車
津駅西口よりバス5分
※詳細は三重県総合文化センターホームページへ